



七尾市には、県立七尾農業高校・県立七尾工業高校・県立七尾商業高校とそれぞれに永い伝統をもつ高校があり、近年の高校に求められる環境の変化に対応し、この三校を発展的に統合することとなった。また、

- ①生きる力を育成する「こころの学習空間」づくりとしてのふれあいを生み出す空間。
- ②21世紀の産業人材を育成する「新世紀型学習空間」づくりとしての少人数学習・IT機器、自然エネルギーを利用した環境学習。
- ③地域に貢献できる人材を育成する「教育空間」づくりとしての地域開放学習空間。

の3項目に基づき、基本方針を作成した。


開かれた学校：1階に一般開放諸室を集中して、中庭より直接アプローチ可能な玄関を設置

明るい空間：2・3階は吹抜け空間を取り囲む回廊空間とし、各階に commonspace を設け、トップライトから自然光が降り注ぐ

3工期に分けて工事：工事期間においても学校が運営されることから、カリキュラムへの配慮や、生徒・職員・その他施設利用者に対する安全や機能的な動線に配慮

：管理棟、管理教室棟において県産材スギを使用

：床タイル・カーテン・インターロッキング・防球ネット・間仕切り壁

：自然エネルギーを利用したクール・ヒートトレンチ給気システムを採用

DATA

七尾市下町地内
平成14年10月～平成18年6月
11,736㎡

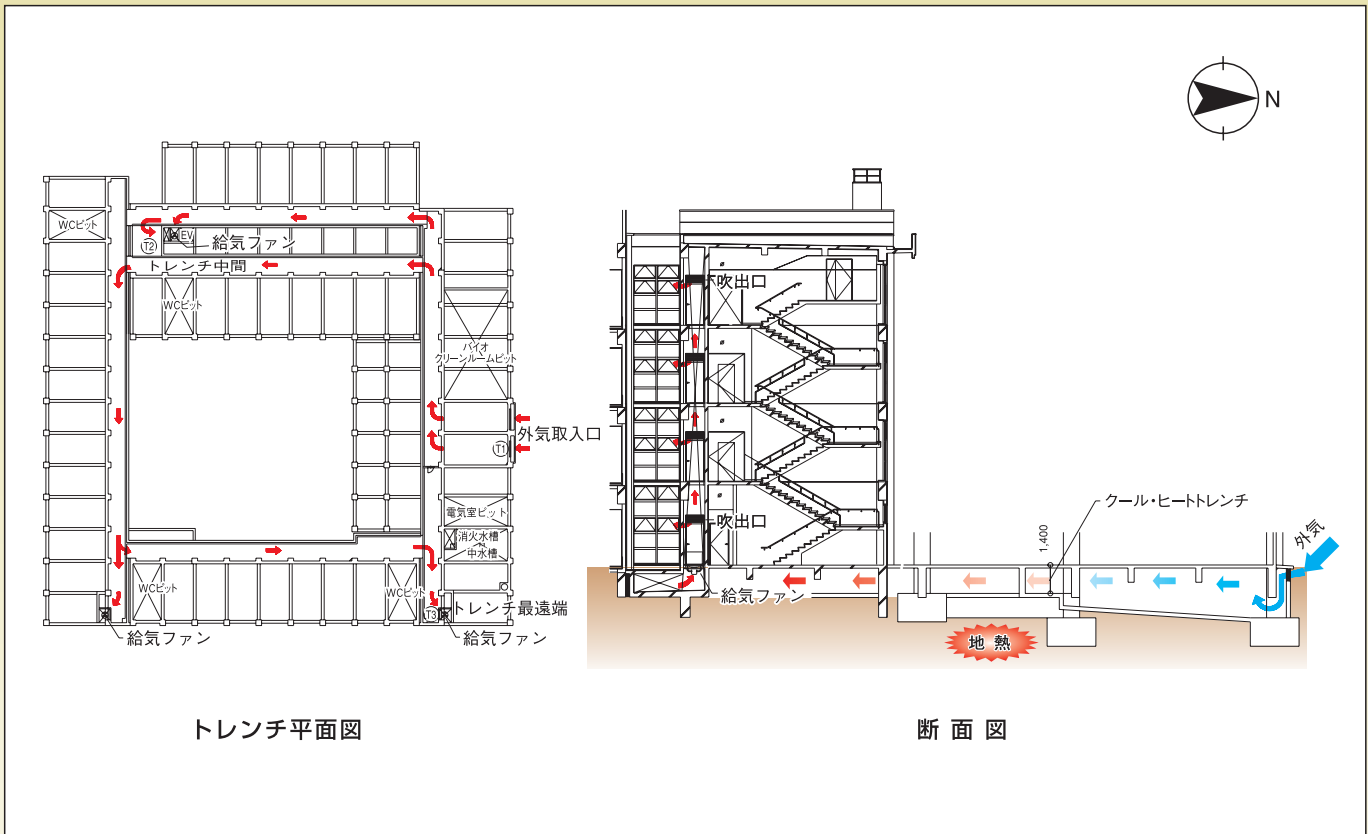
特別教室棟A
RC造：4F
3,347㎡

特別教室棟B
RC造：4F
3,106㎡

管理棟
RC造：4F
1,308㎡

管理教室棟
RC造：4F
2,820㎡

部活動活性化センター
S造：2F
1,153㎡



クール・ヒートトレンチ

取り入れた外気を、年間を通して温度が安定している地熱を利用して予冷・予暖し、各階給気口から廊下を経て室内へ供給している。

電気幹線、暖房・給排水主管を布設する地下トレンチを副次的に活用することにより、インシタルコストへの影響を抑えた。

検証の結果、冬季82,000MJ、夏期70,000MJ（灯油熱量換算で4,100ℓ）の地熱量が利用できている。

（※地中に設けた配管スペース）



トレンチ内部



給気シャフト内部



給気口